

私が東大見学会に参加して、特に強く心に残っているのは、ディレクトフォース、二高 OB・OG の方々との懇談会の 2 つです。

東京駅に着いて間もなく、私たちの班は丸の内にある三菱商事(株)の会議室で、ディレクトフォースの方々や社員の方々と交流をしました。最初の方は、本社というイメージやとても大きな会議室、社員やディレクトフォースの方々の、今まで経験したことのないような威厳のある空気に圧倒されるばかりでしたが、社員の方の自己紹介で少し気をほぐすことができました。

社員の方による仕事紹介で一番印象に残っているのは、アルミニウムを取り扱うグループで働いておられる方の話です。その方の話では、日本はエネルギーの国内自給率が 5%と極めて低く、特にアルミニウムに至ってはすべてをアフリカやオーストラリア、ブラジルなど、国外から年間で約 23 万 t も輸入しており、安定した供給が必要不可欠の状態であるということでした。そこで、三菱商事はアフリカ大陸にあるモザンビークという国にアルミニウム工場を建設し、その国の国家プロジェクトとして運営をしているそうです。今ではこの工場は世界で 10 番目に大きく、出資は三菱商事を含めた、モザンビークの政府や南アフリカ共和国などの世界 4 社で行っていて、売上はモザンビーク国内で一位というぐらい大きな政策なのだそうです。また、MCDT (モザール・コミュニティ・ディベロップメント・トラスト：モザール地域発展基金) として、工場の売り上げの 1%にあたる年間約 2 億円を、工場から半径 10km 内の地域に水道設備や小学校などを建設して、アルミニウムで得た利益を地球に還元するというプロジェクトも同時に行っているそうです。また、その方はモザンビークで勤務していた頃の私生活での発見も人としての成長に繋がり、この経験は自分自身にとってとても貴重なものになったと話されていました。

それから、私たち高校生に向けて 3 つのことを話していただきました。一つ目は何事も恐れなくて挑戦すること、二つ目は自分が住んでいる日本という国を、世界の中の日本として少し離れて、客観的に見ること、三つ目は自分と「違う」ことを受け入れる、ということです。特に三つ目については、その方の経験も含まれていて、国が違えば宗教や作法、価値観は全く異なり、それまで当たり前だと思っていたことは世界では当たり前ではないことに気づき、その違いを受け入れたときに少し気が楽になったと話されていました。

そのとき私は、固定観念にとらわれなくてフレキシブルに対応できる人が、よりグローバルになっていく世界でうまく生活できる人なのではないかと思いました。そのあとに、ディレクトフォースの方々や社員の方々を含んで班ごとに行われた質問をする場では、本当にたくさんのことを教えていただくことができました。例えば、ディレクトフォースの方の話では、外国人の方と話すときは言語をあまり理解できなくても、それよりもコミュニケーションを取ろうとする気持ち、ジェスチャーや表情で伝えようとする姿勢が大事であり、また、「分からない」とはっきり言った方が相手もそのことを理解してくれてより深い討論ができることがあるということも聞くことができました。

他にも、刺激による圧迫で成長できることや粘り強く考えて挑戦しようとする姿勢、好きなことをみつける、何も恐れなくて一所懸命とにかくがんばることなど、いろいろ教えていただき、その中で一番心に残ったのが、仕事紹介で鮭鱒養殖事業について説明してくださった若林さんとの話です。私が質問をする番になって、話し合いが苦手で自分の言ったことは間違っているのではないかと不安になり、部活動でも自分の意見を少しはぐらかせて言うてしまうことがあり、それを改善するためにはどのようなチカラをどのようなきっかけで培えば良いのか質問しました。すると、若林さんは意見を話すのではなく書いてみるとすこし緊張からほぐれて話すことができたり、思い切ってありのままに伝えることで、間違っていたら必ずフォローしてくれる人がいるから、そこでさらに自分を成長させることができると、具体的に例を挙げながら親身になって回答してくださいました。この経験から私は、何も言わずにいたら絶対に成長することはないと知り、やったことがないことでも積極的にやってみようかなと思う姿勢も大切なのだなと感じたので、これからは徐々にそのようになれるようまずは意見を伝

えることから努力しようと思いました。

そしてその日の夕食後には、ホテルの会場で二高 OB・OG で東京大学の現役大学生の方々に、普段聞くことができない貴重な話をたくさん聞くことができました。その場での懇談は、三菱商事の社員やディレクトフォースの方々、企業大学訪問で訪問させていただいた国土交通省の方々との話とは違って、現役大学生だからこそ話せることを、たくさん教えていただきました。

最初に話を聞いた方は、一週間のうち1日だけ睡眠を長くとり、6日は3時間ほどの睡眠だけで、その時間を勉強に当てたそうです。また、携帯電話を離すことができなくなってしまったことがあるそうで、そのときは早く起きることができたときだけ触っても良いことにしたり、まわりを禁欲的にしたりなど、自分なりにルールを作って、それを実行するようにしていたと仰っていました。私自身も高校生になってスマートフォンを持つようになってから、友達とメールしたり音楽を聞いたりする時間が増えてしまい、それによって勉強に充てる時間が減ってしまった経験があったので、その方の話を聞いて、自分も無駄な時間を作らない努力をしようと思改めて強く思いました。

他にも、東京大学のことについて詳しく話を聞くことができました。例えば、東京大学は東北大学に比べて、二高から入学する人が少ないため、より多くの新しい友人ができ、新鮮な気持ちで多くの刺激を受けながら、自分自身のモチベーション、意識を高められる生活ができることや、周りの人を見て学ぶだけで成長できることを具体的に話してくださいました。

その中で私が一番興味を持ったのが、勉強と部活動の両立についてです。私は吹奏楽部に所属しており、休日もなかなか休みを取れないのでそれに関してとても気になっていました。その方は、両立については、小さいことでも、少ない時間でも自分が満足するまでどれだけできるかがポイントだと思っていると言っていました。また、同じ部活の人であれば勉強のために確保できる時間もほぼ同じなので、その人をペースメーカーにして緻密な目標を立てた方ががんばれるそうです。さらに、仙台二高は部活動を生徒全員に課しており、勉強の他に自分の取り柄ができるため、たとえ勉強で落ち込んでも都内の高校生よりタフになれるとも仰っていました。

今回、この東大見学会で特に何回も意識された言葉は、何事もチャレンジ精神で挑戦しようとする、ということです。外国で働きながら住んで得た経験、試験競争を勝ち抜いたからこそその言葉は、とても説得力のあるものでした。そして、この言葉から私は、OBの方曰く東北大学合格レベルの二高の授業を主体的に受けながら、自分に合わせた他の勉強も積極的にやってみようと思っていました。また、部活動で疲れていても、毎日少しでも必ず机に向かって勉強する癖をつけ、今から大学入試を見据えて頑張っていこうと思います。